

活用効果評価結果

公開版

令和 8 年度

北海道開発局新技術活用評価委員会

N E T I S 情 報	開発目標	経済性の向上、地球環境への影響抑制、省資源・省エネルギー																			
	新技術登録番号	CB-190024-VE				区分		工法		有用な技術の位置づけ				活用促進技術							
	分類	共通工－法面工－植生工－厚層基材吹付工																			
	新技術名	ウッディソイル・ネオ工法 副題：「施工現場での廃棄物活用」と「地球温暖化対策」を可能とした法面緑化工法																			
	比較する従来技術（従来工法）	植生基材吹付工																			
	新技術の概要及び特徴	本技術ウッディソイル・ネオ工法は、従来は植生基材吹付工で対応していた範囲に適応が可能で、高度化成肥料を使用しないことやN2O排出抑制微生物資材を混合したことにより、経済性や社会環境性により優れた施工が可能な技術。																			
活 用 効 果 評 価	所見	総合評価において「従来技術より優れる」と判定され、活用の効果から下記が認められる。 【優れていた所】 ・堆肥化待ち・場外搬出・処分・別材料調達の一部を減らせるため経済的に優れ、環境への負荷を低減できる。 ・木質チップのリサイクル基盤材と微生物資材による植物発育促進効果から被覆率が高いため品質に優れる。 ・現地発生品利用により現地植生での緑化が期待できるため、周辺環境の保全に優れる。 ・温室効果ガス発生を抑制する微生物使用の資材の使用しているためN2Oガスを排出削減できる。 【劣っていた所】 ・なし																			
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用効果調査の継続は行わない。																			
	留意事項	【留意事項】 ・なし																			
	当該技術における改良点及び要望	—																			
参 考	1	道路改良工事（従来技術：植生基材吹付工（活用型：施工者選定型（契約後提案））																			
	2	道路改良工事（従来技術：植生基材吹付工（活用型：施工者選定型（契約後提案））																			
	3	道路改良工事（従来技術：植生基材吹付工（活用型：施工者選定型（契約後提案））																			
	4	道路改良工事（従来技術：植生基材吹付工（活用型：施工者選定型（契約後提案））																			
	5	道路改良工事（従来技術：植生基材吹付工（活用型：施工者選定型（契約後提案））																			
	6																				
	7																				
	8																				
	9																				
	10																				
	11																				
	12																				
	13																				
	14																				
	15																				
	16																				
	17																				
	18																				
	活 用 効 果 調 査 結 果	対象工事																			
		ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	項目の平均(点)
項		R2	R2	R3	R3	R7															
経済性		B	B	B	B	B														B	C
工程		C	C	C	C	B														C	C
品質・出来形		B	B	A	B	B														B	C
安全性		C	C	C	C	C														C	C
施工性		C	C	C	C	C														C	C
環境		B	A	A	B	A														A	C
その他																					
総合評価点	B	C	B	B	B														B	C	
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか			今後も是非活用したい		活用を検討したい		場合によっては活用することもある		技術の改良を強く望む		優位性における判定										
				50%		20%		30%		0%		A		従来技術より大幅に優れる							
												B		従来技術より優れる							
												C		従来技術と同等							
												D		従来技術より劣る							
追跡調査の必要性		—																			
追跡調査		—																			